職業実践専門課程等の基本情報について

龍馬情報ビジネ	*ス&	設置認可年			<u>長名</u> E 長	〒 (住所)	〒780-0056	<u>所在地</u>			
フード専門学					川隆		高知市 北本町 1一 088-825-0077				
設置者名		設立認可年	月日		表者名 	=	〒780−0056	所在地			
学校法人龍馬	学園	平成1年3月	23日		!事長 「新市	(住所)	高知市 北本町 1-	12-6			
分野		認定課程名		認定学科			088-825-0077 門士認定年度	高度専門士認定	'年度	職業実践	專門課程認定年歷
工業		美関係専門課程		システムエ			え10(1998)年度	-			26(2014)年度
学科の目的		'一としての基礎能力 1る人材を養成する。	と、SEとして	の知識、技術	が、そして人間	性を向上さ	せることを目的とし、情報	処理業界の中核とな	れる人材を	を養成する。お	技術、人間性ともに
学科の特徴(取得 可能な資格、中退 率 等)	応用情報:	技術者試験、基本情	報技術者試馴	倹、データベ-	ーススペシャリ	リスト試験、情	青報処理安全確保支援士	試験、ネットワークス	ペシャリス	スト試験 中退率	率7.4%
修業年限	昼夜	全課程の修了に必	要な総授業 単位数	時数又は総	講	義	演習	実習	身	ミ験	実技
3	昼間	※単位時間、単位いずれ かに記入	2,570	単位時間 単位	1,456	単位時間	1,114 単位時間 単位	0 単位時間	(D 単位時間 単位	0 単位時間
生徒総定員		実員(A) 留学	生数(生徒実員)		留学生割		中退率	平1位		単位	単位
60 人	23	3 A	() 人	C) %	7 %				
3371	■卒業者		:	9		人	,				
	■就職希	·望者数 (D)	:	8		Ţ					
	■就職者 ■地元就	·数(E) :職者数(F)	:	<u>8</u>							
	■就職率	(E/D)	v a data - 1-	100		%					
	■就職者	に占める地元就職者	の割合 (F/E	E) 25		%					
	■卒業者	に占める就職者の割	合 (E/C)								
Aban b	■進学者	·数		89 0		<u>%</u> 人					
就職等の状況	■是子句										
	就職辞退	者1名									
	小儿中以口干人	1917									
	(令和		者に関する令	分和 7 年5月	1日時点の情報	報)					
		職先、業界等									
	(令和6年度	『卒業生) -タソフトウエア会社	- 医病注								
		メノンドラエテ云台	1、区凉丛八								
		評価機関等から第					0				
第三者による	※有の場合	1、例えば以下について	※方の母会 例えばい下について任意記載								
学校評価											
		評価団体:			受審年月:			価結果を掲載した ームページURL			
当該学科の		評価団体:			受審年月:						
	https://wv	評価団体: ww.ryoma.ac.jp/rcb/s	system/		受審年月:						
	https://w		system/		受審年月:						
ホームページ			system/		受審年月:						
ホームページ		ww.ryoma.ac.jp/rcb/s	system/		受審年月:				2, 570	0 単位時間	
ホームページ		ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数		た実験・実習	受審年月: 習・実技の 授					0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ		ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企乳			留・実技の授業				(
ホームページ		ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま	業等と連携し 業等と連携し 影授業時数	た演習の授業	習・実技の授! 《時数	業時数	本		100	0 単位時間	
ホームページ		ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま	業等と連携し 業等と連携し 影授業時数	た演習の授業	留・実技の授業	業時数	本		100 2, 570	0 単位時間	
ホームページ		ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま	業等と連携し 業等と連携し 多授業時数 うち企業 ³	た演習の授業	習・実技の授! 《時数	業時数・実習・実技	本		2, 570	0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま	業等と連携し 業等と連携し 多授業時数 うち企業 ³ うち企業 ³	た演習の授業 等と連携した 等と連携した	習・実技の授! 業時数 必修の実験	業時数 ・実習・実技 の授業時数	本		2, 570 (0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL ご業等と連携した と習等の実施状況	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま	業等と連携し 業等と連携し 多授業時数 うち企業 ³ うち企業 ³	た演習の授業 等と連携した 等と連携した	習・実技の授 素時数 二必修の実験 こ必修の演習の	業時数 ・実習・実技 の授業時数	本		2, 570 (0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL と業等と連携した決 で実施状た (A、Bいずれか	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま	業等と連携し 業等と連携し 多授業時数 うち企業 ³ うち企業 ³	た演習の授業 等と連携した 等と連携した	習・実技の授 素時数 二必修の実験 こ必修の演習の	業時数 ・実習・実技 の授業時数	本		2, 570 (0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL と業等と連携した R習等の実施状況	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rob/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち必有	業等と連携し 業等と連携し 多授業時数 うち企業 ³ うち企業 ³	た演習の授業 等と連携した 等と連携した	習・実技の授 素時数 二必修の実験 こ必修の演習の	業時数 ・実習・実技 の授業時数	本		2, 570 (0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL と業等と連携した決 で実施状た (A、Bいずれか	(A:単f	www.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち必称 (うち4 位数 による算定)	楽等と連携し 実等と連携し を授業時数 うち企業 うち企業 き、 うち企業等と連携	た演習の授業等と連携した 等と連携した したインター	習・実技の授 素時数 二必修の実験 こ必修の演習の	業時数 ・実習・実技 の授業時数 受業時数)	本		2, 570 (0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL と業等と連携した況 で変施状れか	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必動 (うち4 立数による算定) 総単位数 うち企業	楽等と連携し 実等と連携し を授業時数 うち企業 うち企業 き、 うち企業等と連携	た演習の授業等と連携した等と連携したしたインター	習・実技の授録 素時数 =必修の実験 =必修の演習の −ンシップの‡	業時数 ・実習・実技 の授業時数 受業時数)	本		2, 570 (0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL と業等と連携した況 を関等の実施状れか	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち必動 (うち1 立数による算定) 総単位数 うち企業 うち企ま	楽等と連携し 楽等と連携し を授業時数 うち企業 うち企業 ・ 企業等と連携	た演習の授業等と連携した等と連携したしたインター	習・実技の授録 素時数 =必修の実験 =必修の演習の −ンシップの‡	業時数 ・実習・実技 の授業時数 受業時数)	本		2, 570 (0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間 0 単位時間	
ホームページ URL と業等と連携した況 で変施状れか	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち必動 (うち1 立数による算定) 総単位数 うち企業 うち企ま	業等と連携し 接等と連携し を授業時数 うち企業等 うち企業等と連携 を業等と連携し 業等と連携し 影響に位数	た演習の授業等と連携した等と連携したしたインター	習・実技の授録 素時数 =必修の実験 =必修の演習の −ンシップの‡	業時数 ・実習・実技の授業時数 ・受業時数)	の授業時数		2, 570 (0 単位時間 単位時間	
ホームページ URL と業等と連携した況 で変施状れか	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち企業 うち必動 (うち1 立数による算定) 総単位数 うち企業 うち企ま	業等と連携し 接等と連携し を授業時数 うち企業等 うち企業等と連携し 業等と連携し 事単位数 うち企業等と連携し 事単位数	た演習の授業 等と連携した したインター た実験・実習 たた演習の単位 等と連携した	習・実技の授! 集時数 ニ必修の実験 ニ必修の演習の ーンシップの計 習・実技の単位 立数	業時数・実習・実表・実習・実務・受業時数立数・実習・実施	の授業時数		2, 570 (0 単位時間 単位時間 単位 単位	
ホームページ URL と業等と連携した決 で実施状た (A、Bいずれか	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必有 (うち血 立数による算定) 総単位数 うち企業 うち必有	実等と連携した を授業時数 うち企業等 うち企業等と連携した 実等と連携した 事単位数 うち企業等と連携した。 うち企業等と連携した。	た演習の授業 等と連携した いたインター た実験・実習 た演習の単位 等と連携した	習・実技の授! 集時数 - 必修の実験 - 必修の演習の - ンシップの計 音・実技の単位立数	業時数・実習・実数の受業時数)・支部を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を	の授業時数		2, 570 (0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位	
ホームページ URL	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必有 (うち血 立数による算定) 総単位数 うち企業 うち必有	実等と連携した を授業時数 うち企業等 うち企業等と連携した 実等と連携した 事単位数 うち企業等と連携した。 うち企業等と連携した。	た演習の授業 等と連携した いたインター た実験・実習 た演習の単位 等と連携した	習・実技の授! 集時数 = 必修の実験 = 必修の演習の ーンシップの計 型・実技の単位 立数 = 必修の実験 - 必修の実験	業時数・実習・実数の受業時数)・支部を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を	の授業時数		2, 570 (0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
ホームページ URL	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必有 (うち血 立数による算定) 総単位数 うち企業 うち必有	実等と連携した を授業時数 うち企業等 うち企業等と連携した 実等と連携した 事単位数 うち企業等と連携した。 うち企業等と連携した。	た演習の授業 等と連携した いたインター た実験・実習 た演習の単位 等と連携した	習・実技の授! 集時数 = 必修の実験 = 必修の演習の ーンシップの計 型・実技の単位 立数 = 必修の実験 - 必修の実験	業時数・実習・実数の受業時数)・支部を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を	の授業時数		2, 570 (0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
ホームページ URL	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企業 うち必有 (うち血 立数による算定) 総単位数 うち企業 うち必有	実等と連携した を授業時数 うち企業等と連携した を実等と連携した。 を関係した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実等と連携した。 を実験した。 を実験した。 を実験した。 を実験した。 を実験した。 を実験した。 を実験した。 を実験した。 を表し、 をまし、 をまし。 をまし。 をまし、 をも、 をも、 をも、 をも、 をも。 をも、 をも。 をも、 をも、 をも、	た演習の授素 等と連携した た実験・実置 したインター た実験・実置の単位 た実験・実出した た次習の単位 したインター た変形のである。 であって、 と連携した したインター	習・実技の授! 集時数 ニ必修の実験 ニ必修の実験 ニンシップの計 で変勢にあります。 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験	・実習・実 ・実習・実 か授業時数) 立数 ・実習・実 が受業時数)	の授業時数	-A<->URL	(100 2,570 (100 (0	0 単位時間 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
ホームページ URL	(A:単f	ww.ryoma.ac.jp/rob/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企ま うち企ま うち必能 (うち1	集等と連携し を接案は表 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携の うちなまます。	た演習の授素 等と連携した た実験・実置 したインター た実験・実置の単位 た実験・実出した た次習の単位 したインター た変形のである。 であって、 と連携した したインター	習・実技の授! 集時数 ニ必修の実験 ニ必修の実験 ニンシップの計 で変勢にあります。 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験	業時数 ・実習・実技 の授業時数 立数 ・実習・実技 の授業時数 立数 ・実質の数 ・実質の数 ・実施を表 ・実施を表 ・実施を表 ・実施を表 ・実施を表 ・実施を表 ・実施を表 ・実施を表 ・変換を表 ・変換を表 ・変換を表 ・変換を表 ・変換を表 ・変換を表 ・変換を表 ・変換を表 ・変換を表	の授業時数	ームページURL 新号)	(100 2, 570 (100 ()	0 単位時間 0 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
ホームページ URL **等と連携した と連携した。 でいずれか に記入)	(A:単作	ww.ryoma.ac.jp/rob/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企動 うち企動 (うち企動 (うち企動 (うちな)	大等と連携し を と連携し を と連携し うち企業等と連携し こまずをと連携し にまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをときない。 こまずをとまずをとまずをとまずをとまずをとまずをとまずをとまずをとまずをとまずをと	た演習の授素 等と連携した た実験・実置 したインター た実験・実置の単位 た実験・実出した た次習の単位 したインター た変形のである。 であって、 と連携した したインター	習・実技の授! 集時数 ニ必修の実験 ニ必修の実験 ニンシップの計 で変勢にあります。 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験	業時数 ・実習・実技の授業時数) 立数 ・実習・実技の対象 ・実習・実技の対象 ・実習・実技の対象 ・実習・実技の対象 ・変形を表現 ・変形	京の授業時数 変の単位数 校設置基準第41条第1項3 校設置基準第41条第1項3	ームページUR L 151号) 151号)	(100 2, 570 (100 100 100 100 100 100 100 100 100	0 単位時間 0 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位	
ホームページ URL 業等等と連携した況 を実で等の実施状か に記入)	(A:単作	ww.ryoma.ac.ip/rob/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企動 うち企動 うち企動 うち企動 うち企動 うち必称 (うち1 総単位数 うち企動 うち企動 うち必称 (うち1 である数き) の担当業年以上となる学位をを ② 学士の学位を移動 3 高等学校教諭。	集等と連携した を と連携した を と連携した ま と 業等とを連携 と ま 等 と を 連携 と ま 等 と を 連携 し し う ち と 連携 し か う ち と 連携 と 業等 と と 連携 し か か 企 業 半 単 原に業務に従事に従事に従事に従事に従事に従事になる 著 等 を 録者	た演習の授業 等と連携した いたインター したインター た実験・実習の単位 た演習の単位 したインター したインター したインター したインター したインター したインター したインター したインター	習・実技の授! 集時数 ニ必修の実験 ニ必修の実験 ニンシップの計 で変勢にあります。 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験	集時数 ・実習・実対 の授業時数) 立数 ・実習・実対 の対象は対 ・実習・変 の対象は対 ・実習・変 ・実対 の対 ・変	ボの授業時数 の受験を受験を での単位数 を設置基準第41条第1項第 を設置基準第41条第1項第	ームページUR L 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(100 2, 570 (100 100 100 100 100 100 100 100 100	0 単位時間 0 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 0 単位 単位 単位 1 単位	
ホームページ URL 業等と連携した況 を置等の実施状か に記入)	(A:単作	ww.ryoma.ac.ip/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企動 うち企動 うち企動 うち企動 うち企動 うち企動 である	集等と連携した を と連携した を と連携した ま と 業等とを連携 と ま 等 と を 連携 と ま 等 と を 連携 し し う ち と 連携 し か う ち と 連携 と 業等 と と 連携 し か か 企 業 半 単 原に業務に従事に従事に従事に従事に従事に従事になる 著 等 を 録者	た演習の授業 等と連携した いたインター したインター た実験・実習の単位 た演習の単位 したインター したインター したインター したインター したインター したインター したインター したインター	習・実技の授! 集時数 ニ必修の実験 ニ必修の実験 ニンシップの計 で変勢にあります。 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験	集時数 ・実習・実技の受業時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異性数 ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を	京の授業時数 京の単位数 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9	ームページUR L 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	() 100 () () () () () () () () () (0 単位時間 0 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 0 単位 単位 単位 1 単位	
ホームページ URL 業等と連携した況 で習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単作	www.ryoma.ac.ip/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企乳 うち企乳 うち企乳 うち企乳 うち企乳 さ数による算定) 総単位数 お単位数 うち企乳 うち企乳 うちのの参考 での修業となる ② 学士の学校教師乳 ④ 修士の学校教師乳 ④ 修士の他 ⑤ その他 ⑤ をの他	集等と連携した を と連携した を と連携した ま と 業等とを連携 と ま 等 と を 連携 と ま 等 と を 連携 し し う ち と 連携 し か う ち と 連携 と 業等 と と 連携 し か か 企 業 半 単 原に業務に従事に従事に従事に従事に従事に従事になる 著 等 を 録者	た演習の授業 等と連携した いたインター したインター た実験・実習の単位 た演習の単位 したインター したインター したインター したインター したインター したインター したインター したインター	習・実技の授! 集時数 ニ必修の実験 ニ必修の実験 ニンシップの計 で変勢にあります。 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験	集時数 ・実習・実技の受業時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異性数 ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を	ボの授業時数 の受験を受験を での単位数 を設置基準第41条第1項第 を設置基準第41条第1項第	ームページUR L 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	() 100 () () () () () () () () () (0 単位時間 0 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 0 単位 単位 単位 1 単位	
ホームページ URL 業等と連携した況 で実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単作	ww.ryoma.ac.ip/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企動 うち企動 うち企動 うち企動 うち企動 うち企動 である	集等と連携した を と連携した を と連携した ま と 業等とを連携 と ま 等 と を 連携 と ま 等 と を 連携 し し う ち と 連携 し か う ち と 連携 と 業等 と と 連携 し か か 企 業 半 単 原に業務に従事に従事に従事に従事に従事に従事になる 著 等 を 録者	た演習の授業 等と連携した いたインター したインター た実験・実習の単位 た演習の単位 したインター したインター したインター したインター したインター したインター したインター したインター	習・実技の授! 集時数 ニ必修の実験 ニ必修の実験 ニンシップの計 で変勢にあります。 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験	集時数 ・実習・実技の受業時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異性数 ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を ・変化を	京の授業時数 京の単位数 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9	ームページUR L 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	() 100 () 10	0 単位時間 0 単位 単位 単位 単位 単位 単位 単位 0 単位 単位 単位 1 単位	
ホームページ URL 業等と連携した況 で習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単作	www.ryoma.ac.ip/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企乳 うち企乳 うち企乳 うち企乳 うち企乳 さ数による算定) 総単位数 お単位数 うち企乳 うち企乳 うちのの参考 での修業となる ② 学士の学校教師乳 ④ 修士の学校教師乳 ④ 修士の他 ⑤ その他 ⑤ をの他	業等と連携した を と連携した を と連携した ま と 業等とを連携した。 ま ま き と 連携した。 ま ま き と を 連携に業務に従事に従事に従事に従事に従事に従事に従事に従事に従事に発する者等。	た演習の授業 等と連携した いたインター したインター た実験・実習の単位 た演習の単位 したインター したインター したインター したインター したインター したインター したインター したインター	習・実技の授! 集時数 ニ必修の実験 ニ必修の実験 ニンシップの計 で変勢にあります。 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験 この修の実験	集時数 ・実習・実技の受業時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異時数 ・変異性数 ・変化を変形を変形を変形を変形を変形を変形を変形を変形を変形を変形を変形を変形を変形を	京の授業時数 京の単位数 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9	ームページUR L 第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	() 100 () 10	0 単位時間 6 単位 単位 単位 単位 単位 単位 2 人 0 人 0 人	
ホームページ URL 業等と連携した況 で実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単作	ww.ryoma.ac.ip/rcb/s 立時間による算定) 総授業時数 うち企動 うち企動 (うち血 立数による算定) 総単位数 うち企動 (うち血 のないによる第定) 総単位数 うち企動 (うち血 のないによる第一 のものないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	実等と連携した を接案をと連携した。 うち企業等と連携した。 うち企業等と連携した。 うち企業等と連携した。 うち企業等と連携した。 うち企業等と連携した。 うち企業等と連携を手がした。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	た演習の授業 等と連携した を連携したインター た実験。 では、実験である。 たた演者の になる。 たた演者の になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。 になる。	習・実技の授! 集時数 - 必修の実験 - 心修の実験 - ンシップの計 ・ 実技の単位 なめ修の実験 - 心修の実験 - 心修の実験	東時数 ・実習・実数 ・実教・実数 立数 ・実質性数 ・実質性数 ・実施を学	京の授業時数 京の単位数 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9 校設置基準第41条第1項9	ームページUR L 第1号) 第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	(100 2, 570 () () () () () () () () () (0 単位時間 6 単位 単位 単位 単位 単位 単位 2 人 0 人 0 人	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課 程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

システム工学科では、時代をリードするIT技術者を養成することを教育目的としており、情報処理関係団体及びIT関連企業役職者等を教育課程編成委員会委員に選任し、IT業界の専門性の動向、新たな技術動向に関する知識・技術について、関係者からの意見等を十分に反映して、より実践的な授業科目、授業の内容・方法の改善を図っていく方針である。

- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を 置く。

教育課程編成委員会での審議内容を学科で共有後、学科内でカリキュラム編成会議を行う。

カリキュラム編成会議の結果を、教務総括会にて報告し承認され採用される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
加藤 稔	高知県情報産業協会	令和5年9月1日~令和7年8月 31日(2年)	1
福永 龍雄		令和6年7月1日~令和8年6月 30日(2年)	3
中川 隆	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和5年9月1日~令和7年8月 31日(2年)	-
西成 和広	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和5年9月1日~令和7年8月 31日(2年)	-
鳴瀧 学志	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和5年9月1日~令和7年8月 31日(2年)	-
川村 剛久	〒	令和5年9月1日~令和7年8月 31日(2年)	-
濵渦 昇	龍馬情報ビジネス&フード専門学校	令和7年7月1日~令和9年6月 30日(2年)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 8月、2月

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月1日 17:30~18:30

第2回 令和7年2月7日 17:30~18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「DBはWebやAI分野でも注目されているが、大企業はデータを豊富に蓄積できているので、AIでの活用方法を検討して実施できるが、中小企業はそもそもデータがない。どのようなデータを蓄積する必要があるか、データの分析をし、AIに対して、効果的に学習させるように加工を行える能力が求められる」という意見があり、DB授業内でのSQL演習により力を入れていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

最近の技術動向を踏まえ、現場で必要な知識・技術を具体的に身に付けさせるため、企業へのヒアリング等を通じて重要項目や課題を抽出し、その結果にもとづいた解決・改善内容を実習や演習内容に反映できるよう企業と連携しながら計画を進める。また実習・演習等の実施後には企業及び学生からの報告を元に、その効果を検証しながら改善・改良を図る。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携先企業等の担当者と学校担当者の間で、授業形態やシラバスの確認を行い、また評価項目に関しては、その内容とレベルを協議し確認している。実習・演習等の期間中はどのような指導を学生が受け、どのように向上したのかを企業等の担当者から適宜、具体的な報告を受けている。また、その実効性について企業側と学校側とで具体的な検討ができるよう体制を敷いている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
システム設計	学内授業	ソフトウェア品質に関する基礎知識、およびソフトウェアテスト設計に関する基本スキルを身に付ける。	株式会社SHIFT PLUS

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修等は本校の教職員研修規程に基づき、計画し実施する。当校が実施する研修は、①新任者研修、②管理職研修、③養成研修に分けて行われ ており、県内外の各科に関わる業界関係団体や、教育関係団体が主催する研修などに積極的に参加させている。研修等の参加に当たっては、校 長又は部門の長が本人のキャリアや適性、意欲等を考慮し、また学校全体の状況等も踏まえ、戦略的に研修を計画している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 基本情報科目Bの解法と指導ポイント 連携企業等: 休式会社

^{、佐150年本サ・}インフォテックサーブ

期間: 令和6年8月29日、令和6年9月2日 対象: 専門学校教員

_{中容} 近年の基本情報技術者試験に対する問題演習方法や、効果的な学習指導方針についての講習にオンラインで参

内容加した。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 相手の参加を引き出すコミュニケーション 連携企業等: 一般社団法人REIONE

期間: 令和6年12月25日 対象: 当学園教員

カロマ 学生が自身の情報を発しやすい環境の構築と、教員が生徒の状態を把握しやすくする方法に焦点を当て、学生が

内容
主体的に授業に参加する手法を学ぶ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: AIリテラシー講座 連携企業等:株式会社サーティファイ

期間: 令和7年12月 対象: 専門学校教員

内容 AIの基礎から応用、倫理まで体系的に網羅し、安定したAI教育を実施していく為に参加する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 退学防止と心的障害を持った学生への対応 連携企業等:人間環境大学

期間: 令和7年12月25日 対象: 当学園教員

内容 心的障害を持った学生への対応や学生の退学防止について、心理学の見地から学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき自己点検評価を行っており、作成した資料を元に学校関係者 に意見を聞き、教育活動の改善に努めていく方針である。

(2)「車修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

	·····································
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2)学校運営	管理運営
(3)教育活動	教育の内容
(4)学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育の実施体制
(7)学生の受入れ募集	学生支援
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	改革·改善
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

専門性や指導力等の維持や向上のため、他県の専門学校及び情報系企業との意見交換を行った。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期	種別
加藤 稔		令和5年10月1日~令和7年9 月30日(2年)	業界 関係者
來海 利明			業界 関係者
福永 龍雄		令和5年10月1日~令和7年9 月30日(2年)	企業 関係者
矢野 太久			企業 関係者
宮本 高憲		令和6年7月1日~令和8年6月 30日(2年)	企業 関係者
坂本 昌二			教育関係 有識者
安井 裕冶		令和5年10月1日~令和7年9 月30日(2年)	卒業生

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

△ホームペンジ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(

https://www.ryoma.ac.jp/disclosure/ 令和7年11月1日 URL:

公表時期:

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と密接かつ組織的連携体制を確保し、より質の高い教育を学生に提供することを目的として、企業等の学校関係者 に対して、学校の教育活動、その他学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校紹介
(2)各学科等の教育	設置学科
(3)教職員	教員名簿
(4)キャリア教育・実践的職業教育	実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ
(6)学生の生活支援	募集要項
(7)学生納付金・修学支援	募集要項
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

))

ボームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(URL: https://www.rvoma.ac.in/disel/ https://www.ryoma.ac.jp/disclosure/

公表時期: 令和7年11月1日

授業科目等の概要

	(工業関係専門課程システム工学科)															
		分類選	自	155 ML 7 1 - 7 1 - 7		配当年	授業	単		受業プランス 演	験・	場校	<u>所</u> 校	専		企業等-
	修	択必修	選	授業科目名	授業科目概要	次・学期	時数	位数	義	習	実習・実技	内	外	任	任	との連携
1	0			コンピュータ 概論	コンピュータ用語の基礎や計算を学び、各種コン ピュータ関連の検定に合格するための知識を習得す る。	1 前	156		0			0		0		
2	0			プログラミン グ	基本情報技術者試験、科目Bで必要となる疑似言語 及び、プログラミングに欠かせないアルゴリズムの 仕組み(流れ)を習得する。	1 前	81		0			0		0		
3	0			C言語 I	C言語の文法や基本的なプログラムの作成方法を学 ぶ。	1 前	42		0					0		
4	0			システム開発	基本情報技術者試験の範囲、システム開発について 開発技術、用語を理解する。	1 前	26		0			0		0		
5	0			情報管理と情 報戦略	基本情報技術者試験の範囲マネジメントとストラテ ジについて、各種技法と計算方法、用語を理解す る。	1 前	74		0			0		0		
6	0			アルゴリズム	基本情報技術者試験アルゴリズムの範囲の総復習 と、応用情報技術者試験アルゴリズムに向けての実 カアップを目指す。	1 後	87		0			0		0		
7	0			データベース I	データベースの役割を理解するとともに効果的なテーブル設計手法と基礎的なSQLを実習を通して学んでいく。	1 後	59			0		0		0		
8	0			パソコン演習	幅広く使用されている表計算ソフトの使用方法を学 ぶ。合わせて、基本的なパソコンの操作方法も習得 する。		102			0		0			0	
9	0			コミュニケー ション	社会人として生活をするために必要なコミュニケー ションについて学習する。ワークショップを通し、 問題を的確に捉え、自分の考えをまとめる能力や、 考えを効果的に相手に伝える能力を養う。	1 後	27			0		0		0		
10	0			簿記	簿記の基本を身につけ、全経簿記3級合格を目指 す。	1 後	72		0			0			0	
11	0			国家試験対策 I	情報処理技術者試験(IPA主催)の合格を目指し、特定の製品やソフトウェアに関する学習ではなく、情報技術の背景として知るべき原理や基礎となる知識・技能について、幅広く総合的に学習することを目的とする。	1	119		0			0		0		
12	0			ビジネス実務 I	挨拶、入退室、接客の基本用語、学校への電話連絡、敬語、面接用入退室について自然に感じよく実践できるよう、ロールプレイングを中心に行う。	1 通	37			0		0			0	
13	0			C言語Ⅱ	プログラミング実習を通して、C言語を理解・習得 していくことを目的とする。	2 通	171			0		0		0		
14	0			システム設計	システム化基本検討段階における現状調査、現状分析の手順ならびにシステム設計プロセスにおける具体的なアウトプットの作成手順、更にはプログラミングおよびテストに関する知識を習得する。	\ Z	100			0		0		0	0	0

			ı											
15	0		ネットワーク	ネットワーク、情報セキュリティに関する基礎知識 や最新動向を学ぶ。また、国家試験の問題を意識し て授業内で取り入れ、全体的なネットワーク・情報 セキュリティ能力を向上させる。	温	45	C			0		0		
16	0		データベース Ⅱ	SQL実習を通して様々なSQLを学んでいき、実践的に 扱えるような技術を習得することを目的とする。	2 前	38		0		0		0		
17	0		パソコン概論	Windowsパソコンを構成する各パーツの名称や役割・構造を理解し、パソコンの自作ができるよう習得する。また、トラブル対策についても机上学習する。	丝	12	О	Δ		0		0		
18	0		社会問題	現在社会で起こっている事件や様々な問題に対して、個人の意見を持ち、自らの考え方や価値観を論理的に思考する事で「自分の意見及び見解、改善策」を考えられるようにする。	丝	14	О			0		0		
19	0		国家試験対策Ⅱ	情報処理技術者試験(IPA主催)の合格を目指し、特定の製品やソフトウェアに関する学習ではなく、情報技術の背景として知るべき原理や基礎となる知識・技能について、幅広く総合的に学習することを目的とする。	2 通	335	O			0		0		
20	0		ビジネス実務 Ⅱ	電話応対を始め、社会人としてのマナーについて総合的なレベルアップを図る。また、チームワークを体験するワークショップを行い、積極性や協調性、対話、折衝力を向上させる。	2 通	80		0		0			0	
21	0		一般常識	社会人として恥じない一般教養の習得を目的とす る。	2 通	42	O			0		0		
22	0		システム構築	現状調査・分析およびシステム設計等の上流工程から、プログラム製造およびシステム試験等の下流工程にいたる一連のプロセスを演習することにより実践的なシステム構築知識を習得する。	温	207		0		0		0		
23	0		Java	Javaの基本的な文法および開発ツールの使いかたを 習得する。また今までの開発経験をもとにして より高度なプログラミング能力を養う。	3 通	183		0		0		0		
24	0		Visual Basic	Visual Basicの基本的な文法および開発ツールの使 いかたを習得する。また今までの開発経験をもとに してより高度なプログラミング能力を養う。		73		0		0			0	
25	0		ビジネス基礎	社会人として必要なビジネス文書作成能力や、テー ブルマナー、冠婚葬祭などでの礼儀作法を学ぶ	3 後	18		0		0		0		
26	0		国家試験対策皿	情報処理技術者試験(IPA主催)の合格を目指し、特定の製品やソフトウェアに関する学習ではなく、情報技術の背景として知るべき原理や基礎となる知識・技能について、幅広く総合的に学習することを目的とする。	3	335	C			0		0		
27	0		ビジネス実務 Ⅲ	ビジネス実務の集大成として、電話応対を始め、社 会人としてのマナーについて総合的なレベルアップ を図る。		35		0		0			0	
		 合	計	27	7	科目			2570		(]	単位	. 時間	引)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 科目ごとの総合評価が全てC以上	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 必須科目を履修すること	1 学期の授業期間	16 调

(留意事項)

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

¹ 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。